

## いたばし魅力ある学校づくり審議会 第7回審議会の開催状況について

### 1 第7回審議会の開催状況

令和5年4月12日（水）午後3時より、第7回審議会を開催した。

#### 【議 題】

##### 1 第6回審議会における主な意見等について

第6回審議会の議事録及び主な意見等について確認をした。  
※別紙1：審議会資料3「第6回審議会における主な意見等」

##### 2 第6回小委員会の報告について

以下の項目について、第6回小委員会における協議内容を報告した。  
(1) 小中一貫型学校  
※別紙2：審議会資料4「第6回小委員会報告」

##### 3 小中一貫型学校について

小中一貫型学校には多くの教育効果が期待できることを認識しつつ、周辺小学校からの進学者と内部進学者との間で人間関係の構築に差が出ないように配慮する必要性を踏まえて、設置を検討する必要があることを確認した。また、小中一貫型学校の設置は、小中一貫教育を推進し、ひいては子どもたちのよりよい成長のための1つの手段であることを認識し、学校や地域の事情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく必要があるとしたうえで、小委員会意見のまとめを了承した。

##### 4 施設内容・施設更新について

事務局から施設内容・施設更新における課題認識を説明したのち、参考資料2により委員から説明をいただき、各委員が持つ意見の洗い出しを行った。

#### 【委員より挙げられた意見例】

- 個別最適な学びにより授業形態が多様化している中、将来的な学習環境の変化も視野に入れつつ、学校や生徒とも連携を図りながら柔軟な学習環境を作っていく必要がある。
- 今後更新時期を迎える施設数を踏まえると、財政状況は厳しいと感じる。
- 子どもたちにとっては、校庭や体育館などの遊びのスペースも大事であり、スペースを確保するためには高層化改築も必要ではないか。
- 長寿命化改修にあたっては、単に老朽化した設備を直すだけではなく、学校機能を充実させる視点を持つべきである。

次回審議会においても「施設内容・施設更新」について協議することとし、論点整理を小委員会へ付託した。

※別紙3：審議会参考資料2「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告（令和4年3月）（一部抜粋）」

##### 5 その他

事務局より次回審議会の日程を案内した。

## 2 これまでの検討会開催経過

回	開催月日	内容
第1回	令和4年4月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会長・副会長の選出</li> <li>●諮問、諮問内容説明</li> <li>●審議期間、審議会運営について</li> <li>●呼称や小委員会設置に関する協議</li> <li>●前回答申やいたばし魅力ある学校づくりプラン等に関する報告</li> </ul>
第2回	令和4年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回審議会議事録の区ホームページへの公開について</li> <li>●第1回小委員会の報告について</li> <li>●意見交換（諮問内容に対する議論の視点や方向性）</li> </ul>
第3回	令和4年8月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回審議会における主な意見等について</li> <li>●第2回小委員会の報告について</li> <li>●適正規模・適正配置・適正規模化の方法について</li> <li>●意見交換（通学区域）</li> </ul>
第4回	令和4年10月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第3回審議会における主な意見等について</li> <li>●第3回小委員会の報告について</li> <li>●大規模化対応について</li> <li>●通学区域について</li> </ul>
第5回	令和4年12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回審議会における主な意見等について</li> <li>●第4回小委員会の報告について</li> <li>●大規模化対応について</li> <li>●通学区域・地域協議について</li> </ul>
第6回	令和5年2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回審議会における主な意見等について</li> <li>●第5回小委員会の報告について</li> <li>●大規模化対応について</li> <li>●小中一貫型学校について</li> </ul>

## 3 次回審議会の予定

令和5年6月30日の開催を予定している。

## 第 6 回審議会における主な意見等

### 大規模化対応について

1. 余裕教室があるときのみ多様な学習が実現できる状況は望ましいとは言えない。大規模校に対して子どもたちの学習環境を確保するための配慮が必要である。
2. 大規模校ヒアリングでは良さも語られていたが、プレハブ校舎の質や体育館・校庭の利用制限など課題も存在するため、メリットを強調しすぎない方がよい。通学区域変更による大規模校対応が困難であれば、学校選択制を柔軟に活用するなど視点を広げて検討した方がよいのではないかな。
3. 審議会として、ヒアリング内容を踏まえながら客観的にメリット・デメリットを考えていく必要がある。国の適正規模・適正配置等に関する手引きにある大規模校のメリット・デメリットも踏まえて、予算の制約もある中で大規模校のデメリットとされる部分を解消できるように柔軟な人員配置などを検討することが求められる。
4. 学習環境や学校生活に関して、学校規模による学校間の差が生じないように配慮しつつ、児童・生徒や教員が多いことの良さを活かすことで、大規模校が魅力的なものになるのではないかな。
5. これまで通常学級に関する適正規模を議論してきたが、昨今の状況を踏まえると特別支援学級の視点を加えて議論することも大切である。一方で特別支援教育については大規模校に限らず小規模校や小中一貫型学校など広く関わるため、一つの議論の視点として審議することも必要ではないかな。
6. 児童の増加は日中の学校運営だけではなく、あいキッズにも大きく影響を与えるため配慮を検討するべきである。

### 小中一貫型学校について

7. 小学校に対して一部教科担任制を導入することで、中学校への円滑な移行に加えて各教員の強みを活かした授業運営や教材開発が期待できる。また、教科ごとの授業準備を分担できるため、教員の働き方改革にもつながる。
8. 板橋区では小中一貫教育の取組として中学生を 7 年生、8 年生、9 年生と呼ぶようになったが、目的やめざす姿が理解されていないように感じることもある。小中一貫教育を進めていく中では、あるべき姿や目的を強く打ち出して地域の方にもわかりやすく伝えて

いくことが求められる。

9. 他自治体では、施設分離型の小中一貫校で小学5年生と6年生が中学校校舎に通学している学校がある。また中学校では50分授業、小学校では45分授業が基本であるが、小学校の中休みや昼休みを活用して、柔軟な時間割の設定に取り組んでいる。
10. 小中一貫型学校の最大のメリットは、小学校と中学校の先生が一緒になって一つの学校を運営できることにあり、施設隣接型や施設分離型でも不可能ではないが、施設一体型の方がより効果的である。
11. 小学校と中学校の職員室を一つにすることは大切であるが、施設が同一だとしても必ずしも交流が図られるとは言えない。小学校と中学校の教員が9年間でめざす子ども像を共有し、ともに取り組んでいくことがより重要である。
12. 私立中学校では、内部進学者と新入学者がいる中で分け隔てなく学校生活が送られている。小中一貫型学校の周辺小学校から進学してくる子どもに対して、学校側の配慮や取組により改善を図ることはできる。
13. 全国的に施設一体型の小中一貫校が増えているため、小中一貫型学校の勤務経験を有する教員は増加傾向にある。多くの学校が改築期を迎える中で、審議会としては小中一貫型学校の検討において必要となる視点を示すことが出来ればよいと考える。
14. 施設一体型小中一貫校では、図書館や専科教室など共通施設や設備を共有して学校を運営することで、施設隣接型や施設分離型との違いを明確にすることが出来る。小中一貫校設置に向けて、小中の先生が合同でワークショップや研修を行いながら、小中一貫型学校の運営を検討する必要がある、その旨を答申に加えた方が良い。
15. 小中一貫型学校の企画から具体化まで、工事を除いて最短でも5年間は必要となるのではないか。小中一貫型学校の検討は学校改築に限らず、教育委員会の長中期的な計画の中でしっかりと位置付けていくことが必要である。
16. 小中一貫型学校を検討する際、課題となり得る部分に関しても確認しなければならない。小中一貫型学校の検討は、学校改築や地域の思いなど様々な条件があり、全ての合意が図れている場合には目標年数を掲げることがメリットとなることもあるが、最短年数として数字が先走ってしまう危険もあり年数の明言は避けた方が良い。
17. 区では小中一貫型学校がないため、いじめ、不登校、教員の働き方、学校・保護者間トラブルや学習進度の格差など既存の小中学校が抱える課題が改善されるのか、長引いて



しまうのか見えない。各課題を考慮しながら検討を進めていくとともに、開設後にはしっかりと検証する必要がある。多くの立場の方が参加する本審議会として方向性を示していくことが求められるのではないか。

18. 小中一貫型学校の設置が全ての課題解決につながる訳ではないが、課題の解決方法を改めて考えるきっかけになる。全国的に様々な取組がされていながら多くの不登校が存在する状況にあっては、小学校と中学校のつながりを見直すことで複眼的に課題解決をめざすことができる。審議会としては小中一貫型学校の成果や課題を踏まえて、課題解決の方策を見つけていくことができるのか、知恵を出し合っていければ良い。
19. 他自治体の先行事例を知らない区民の立場として、異学年で合同行事を行うことは活気が出るといった良い面もあるが、小学校6年生という冠がなくなってしまうことや人間関係の固定化、運動会等学校行事における活躍の制限について心配である。
20. 小規模化が進む小中一貫校では9年間にわたる人間関係の固定化が懸念されるが、小中一貫型学校についても入学予定校変更希望制により他の中学校を選択することもできる。
21. 子どもたちの順応性の高さはこれまでも意見されてきたが、教員や組織が変化することは難しいため、小中一貫型学校の推進にあたっては施設整備に関する方向性に加えて、教員の確保や育成についても検討する必要がある。
22. いじめや不登校の要因は様々であり小中一貫型学校であれば解決できる訳ではないが、従来型の小中学校に加えて、小中一貫型学校を選択できる環境は課題対応に有効であると考ええる。

第 6 回 いたばし魅力ある学校づくり審議会 小委員会

日時 令和 5 年 3 月 28 日 (火) 15:00～17:00

場所 区役所南館 6 階 教育支援センター研修室

1 小中一貫型学校

【小委員会意見のまとめ】

第 6 回審議会（令和 5 年 2 月 8 日）では、小中一貫型学校が全国的に増えている状況やその効果及び懸念等が意見された。小委員会では、前回審議会の議論を整理するとともに、審議会において議論すべき視点とそれに対する考え方について議論を行った。

(1) 課題等の整理と取扱い

いじめ・不登校など既存課題、人間関係の固定化や周辺小学校から進学する児童と内部進学者との関係性など小中一貫型学校に対する懸念を踏まえて、小中一貫型学校の設置を検討する必要がある。一方で、小中一貫型学校は従来の小学校・中学校とは異なる新たな選択肢であり、既存の課題解消に留まることなく（課題解消ではなく）、義務教育 9 年間を通してめざす子ども像を示し、特徴的な取組を検討・推進することが重要な役割である。

(2) 施設更新について

小中一貫型学校の設置が効果的な施設更新や教育環境の充実に寄与することを踏まえて、今後の学校施設の更新、老朽化対応について検討する必要がある。

(3) 整備条件について

学校ごとの学級数や通学区域は様々であり、一概に整備条件を掲げることは難しいが、次の点に考慮し、小中一貫型学校の設置を検討することが望ましい。

- ① 小中一貫型学校とする小学校と中学校の通学区域の整合性や就学傾向
- ② 通学距離や通学に係る安全性（移転を伴う場合）

●主な意見等

- ① 想定される課題に対して全て解決策を提案することは困難であり、審議会では課題や懸念を挙げ、その課題や懸念を踏まえた検討の必要性を求めていくことが必要ではないか。
- ② 義務教育 9 年間を通してめざす子ども像を共有し、学校運営に取り組むことが重要であり、学校で生じている現行課題の解消だけではなく、新たな選択肢である小中一貫型学校で実現される価値や成果を検討していきたい。区が掲げる小中一貫教育を効果的に推進することを小中一貫型学校の役割とすべきである。
- ③ 小中一貫型学校の設置は既存の小学校・中学校とは異なる新しい選択肢を示すことだと考えるが、他自治体では、小中一貫型学校の設置検討の中で既存課題の解決に議論が集まりすぎた結果、従来の小学校・中学校で取組をしっかりと行うべきとの結論に至り、もったいないと感じることがあった。課題を認識しながらも新しい価値や新しい体制でどうのぞむか、という姿勢が大切ではないかと思う。
- ④ 人間関係の固定化に関しては小中一貫型学校かつ小規模校である場合に生じる課題であり、小規模校であれば従来の小中学校でも生じていることから、学校規模により生じる課題である。
- ⑤ 小学校と中学校の区切りで人間関係をリセットできる機会がなくなってしまう懸念がある

が、進学先の選択（入学予定校希望変更制や私学）ができるため、既存の進学の方考え方と大きな差はない。

- ⑥ 小中一貫型学校では、めざす子ども像や特徴的な取組を行うことが大切であり、管理職を含めた教員の人事異動に左右されない学校とするためにはＣＳ委員会や保護者、地域住民と一緒に学校運営を進めることが必要である。現在検討されている志村小・志村四中の小中一貫型学校はそのモデル的役割を担っていると思う。
- ⑦ 小中一貫型学校の効果を数字として示すことは難しいが、義務教育９年間（中学校卒業）をイメージしながら学校生活を過ごすことができる環境は、子どもの成長にとって有益なものとなる。
- ⑧ 中学校の教員が小学校で授業を行う等小中一貫校における特徴や強みを打ち出していくことで、従来の小中学校との差別化を進めていくべきである。他校と比較した場合に公平性等が課題となるかもしれないが、小中一貫型学校で特徴的な取組を推進することで区全体の教育環境の向上につながるのではないかと。
- ⑨ １年生から９年生を同じ施設で見られる環境は教員にとって望ましいことが多く、教員の意識改革から小中一貫型学校の良さが生まれることは理解できる。一方で、小中一体型学校の職員体制を校長１名、副校長３名とした場合には校長に係る負担や副校長の業務分担をどう工夫するかが大切である。
- ⑩ 板橋区の小中一貫教育において小中一貫型学校がどのような役割を担っていくことができるのか。小中一貫型学校だけが９年間を見通した教育を行うのではなく、学びのエリアや区全体で９年間を見通した教育を行うための役割が求められる。
- ⑪ 小中一貫型学校では施設面（ハード面）だけでなく学校運営面（ソフト面）でも特徴を出していかないといけない。従来の学校運営を続けた場合には、同じ敷地に小学校と中学校があるだけになり、教員の負担増も心配される。他自治体の先行事例を参考にしながら検討し、設置後も柔軟に対応することが求められる。
- ⑫ 小中一貫型学校の設置にあたり、多くの自治体で小学校６年生の冠がなくなることや活躍の場が減ることを心配する議論がされているが、小学６年生と中学１年生の立場の違いが大きいことでギャップが生じている可能性がある。小中一貫型学校でも区切りを意識した学校運営、学校行事に取り組むことで良い方向へ改善できるのではないかと。
- ⑬ 小中一貫型学校における「人間関係の固定化」と「周辺小学校から進学する児童と内部進学者の関係性」は表裏の関係にある。通学区域や就学状況等により違いはあるが、各家庭の希望を汲むことができるように学校選択制のあり方を含めた検討が必要である。
- ⑭ 小中一貫型学校は、小中学校をそれぞれ単独で改築するよりも効果的な施設更新・老朽化対応が期待できる。また、特別教室や余裕教室を小中学校で柔軟に活用できることも大きなメリットとなる。
- ⑮ 経費的な効果を生み出したうえで学校施設の充実や地域開放の拡充につなげることで、より魅力的な学校施設を実現できる。単純に小学校と中学校を一つにするのではなく、小中一貫型学校の目的やめざす姿を見据えながら必要な施設を検討する必要がある。
- ⑯ 近年改築された学校は校舎の中心にメディアセンター（図書室）を配置しており、教育環境として非常に良い。学校教育のＩＣＴ化が進む中で紙媒体の活用、活字を読むことの役割は大きく、引き続き大切にしてもらいたい。

- ⑰ 小中一貫型学校を設置する際の子どもたちの環境変化を抑えるため、小学校と中学校と通学区域の整合性や就学傾向に配慮するとともに、学校位置が変更となる場合には通学距離が長くなりすぎないように注意する必要がある。
- ⑱ 学校ごとに通学区域の整合性や通学距離等は様々であり、小中一貫型学校の整備条件を細かく掲げることは難しく、あまり限定的すぎないほうが良いのではないか。
- ⑲ 小中一貫型学校となり得る学校を示したうえで、志村小・志村四中の小中一貫型学校の設置に向けた検討及び開設後の効果などを踏まえながら検討することが求められる。

# 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告【概要】

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論

## 第1章 新しい時代の学びの姿

### (1) 社会情勢の変化

⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来  
⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

### (2) 「令和の日本型学校教育」の姿

⇒中央教育審議会において、新しい時代の初等中等教育の在り方を検討  
⇒教育再生実行会議において、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を検討

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

### (3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- ・新学習指導要領の着実な実施
- ・9年間を見通した義務教育の在り方
- ・学校における働き方改革の推進
- ・地域社会や関係機関等との連携・協働
- ・GIGAスクール構想、ICTの活用
- ・多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応
- ・少人数による指導体制の整備

## 第2章 学校施設の課題

### (1) 新しい時代の学びへの対応の必要性

- **ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割**  
⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識  
⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、遊び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要
- **学びのスタイルの変容への対応**  
⇒ICTの活用などにより、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大  
⇒空間・時間を超えて、様々な学習リソースに非同期にアクセスして学ぶことができるなど「非同期・分散」した学びのスタイルが広がり、これまでの「同期・集合」した学びのスタイルと往還する場面が展開されていく可能性も拡大

### (2)～(4) 学校施設等における現状と課題

- ・これまでの学校施設の計画、教室面積、多目的スペース、空調設備の整備状況等
- ・防災・減災、国土強靱化、耐震対策・老朽化した施設の実態、維持管理等
- ・国・地方の財政状況、適正規模・適正配置等の実態、複合化・集約化の状況等

## 第3章 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

### Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

#### 「未来思考」の視点

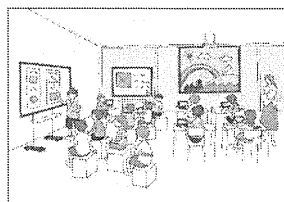
- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、**学校施設全体を学びの場として捉え直す**。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）**をもつ。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）**をもつ。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、**新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する**。

## 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

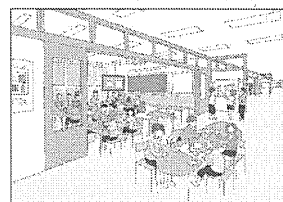
### 【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び** ⇒ **個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現**  
⇒ 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備  
⇒ 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備  
⇒ 教職員のコミュニケーション・リフレッシュの場（ラウンジ）、映像編集空間（スタジオ）の整備

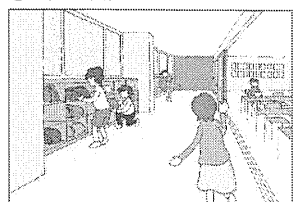
（教室・教室周辺の空間の改善・充実に関する創意工夫の例）



1人1台端末環境等に対応したゆとり  
のある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な  
学習活動への柔軟な対応



ロッカースペース等の配置の工夫等  
による教室空間の有効活用

### 生活 ⇒ 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

- ⇒ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
- ⇒ 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

### 共創 ⇒ 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

- ⇒ 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
- ⇒ 地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

### 【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

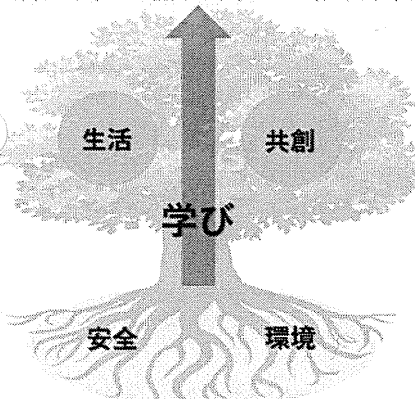
#### 安全 ⇒ 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

- ⇒ 老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
- ⇒ 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

#### 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

- ⇒ 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
- ⇒ 環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

全ての生徒たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿

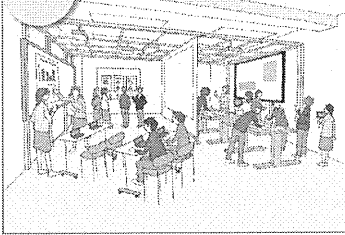
「未来思考」をもった上で、「全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、**これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿**を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。

また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。

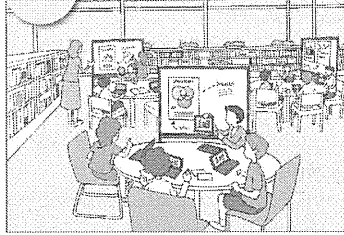
これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく

学び



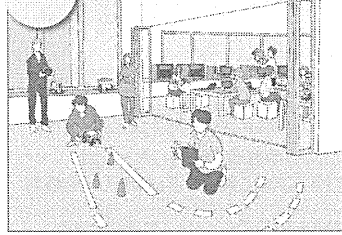
単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



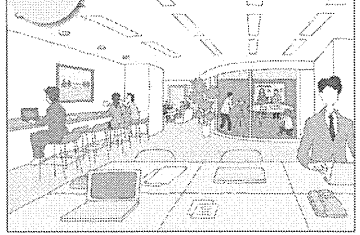
学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び



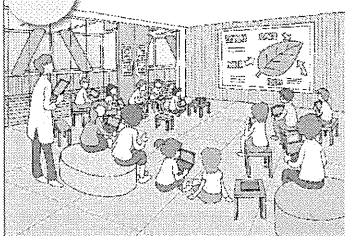
教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び



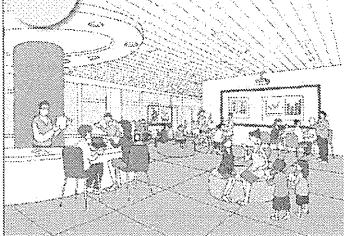
映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活



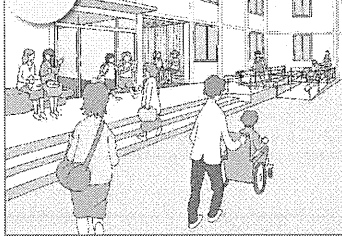
木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創



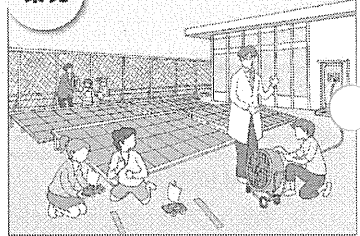
地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

## 第4章 学校設置者における推進方策

今後とも増加する膨大な老朽化施設の現状等を踏まえ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に図る長寿命化改修等を積極的に推進していくことをはじめとした具体的な方策を提言

### （1）長寿命化改修を通じ、新しい時代の学びを実現する教育環境向上と老朽化対策の一体的な推進

- 安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進

### （2）首長部局と協働した、中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進

- 教育委員会と、まちづくり部局や財政部局、環境部局、防災部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
- 中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化等）

### （3）多様な整備手法等の活用と、施設整備と維持管理の着実な推進

- PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進
- 計画的に施設の点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換

### （4）学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進

- 学校施設の計画・設計において、学校設置者と設計者だけでなく、新しい学びの担い手である学校の教職員など関係者が参画した施設づくりを促進、プロポーザル方式の導入推進等

## 第5章 国における推進方策

新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を着実に進めるための具体的な方策を提言

### （1）新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性（目標水準）の提示

- 2020年代を通じて目指す、新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性を目標水準として整理

### （2）教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の事例収集・分析

- 長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に整備している好事例について、ボトルネックとなる課題の解決策とあわせて積極的に周知

### （3）学校施設整備のための財政支援制度の見直し・充実

- 安定的・継続的な予算確保
- 国庫補助単価を含めた財政支援制度の更なる見直し・充実

### （4）新しい時代の学びを実現する学校施設整備の技術的支援の充実

- 学校施設整備・活用のためのプラットフォームを構築（事例・ノウハウの発信、専門家派遣等）
- 先導的モデル研究等を通じた新たな学校施設モデルの提示

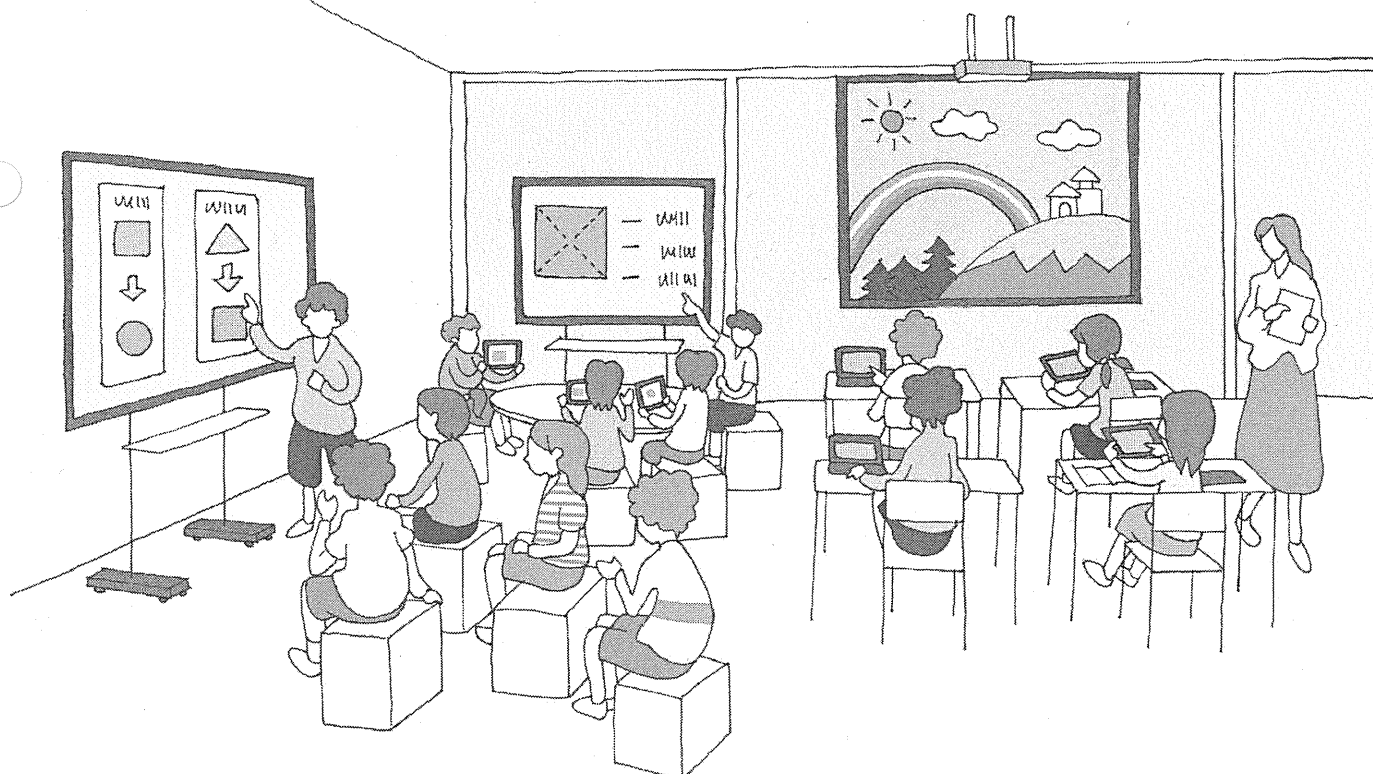
### （5）学校施設整備指針の改訂

### （6）普及啓発、適切なフォローアップと更なる調査研究等の実施

# 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例 (未来思考の視点を含む)

## 01 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間

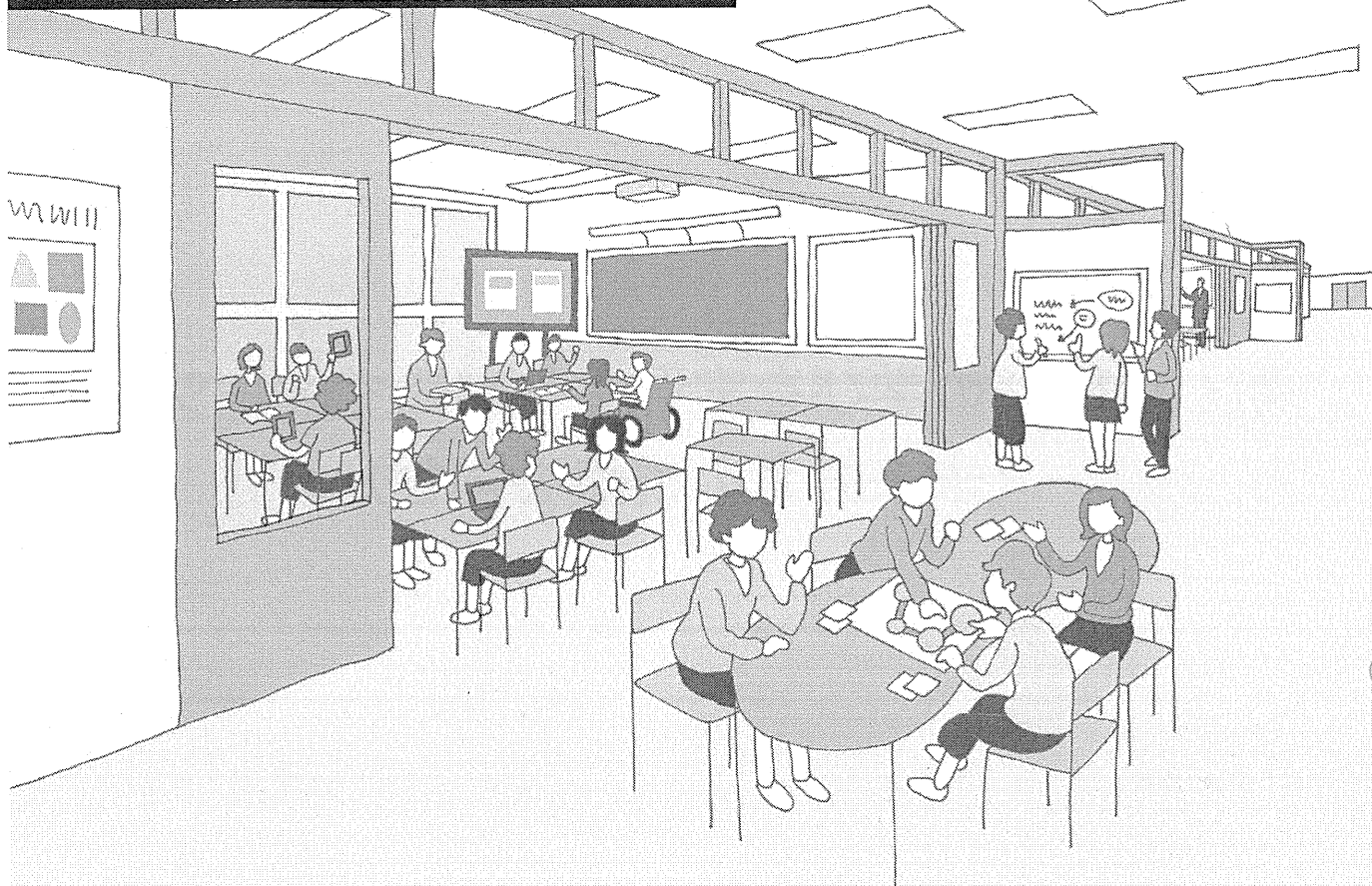


教室空間において、紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていく姿



## 02 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

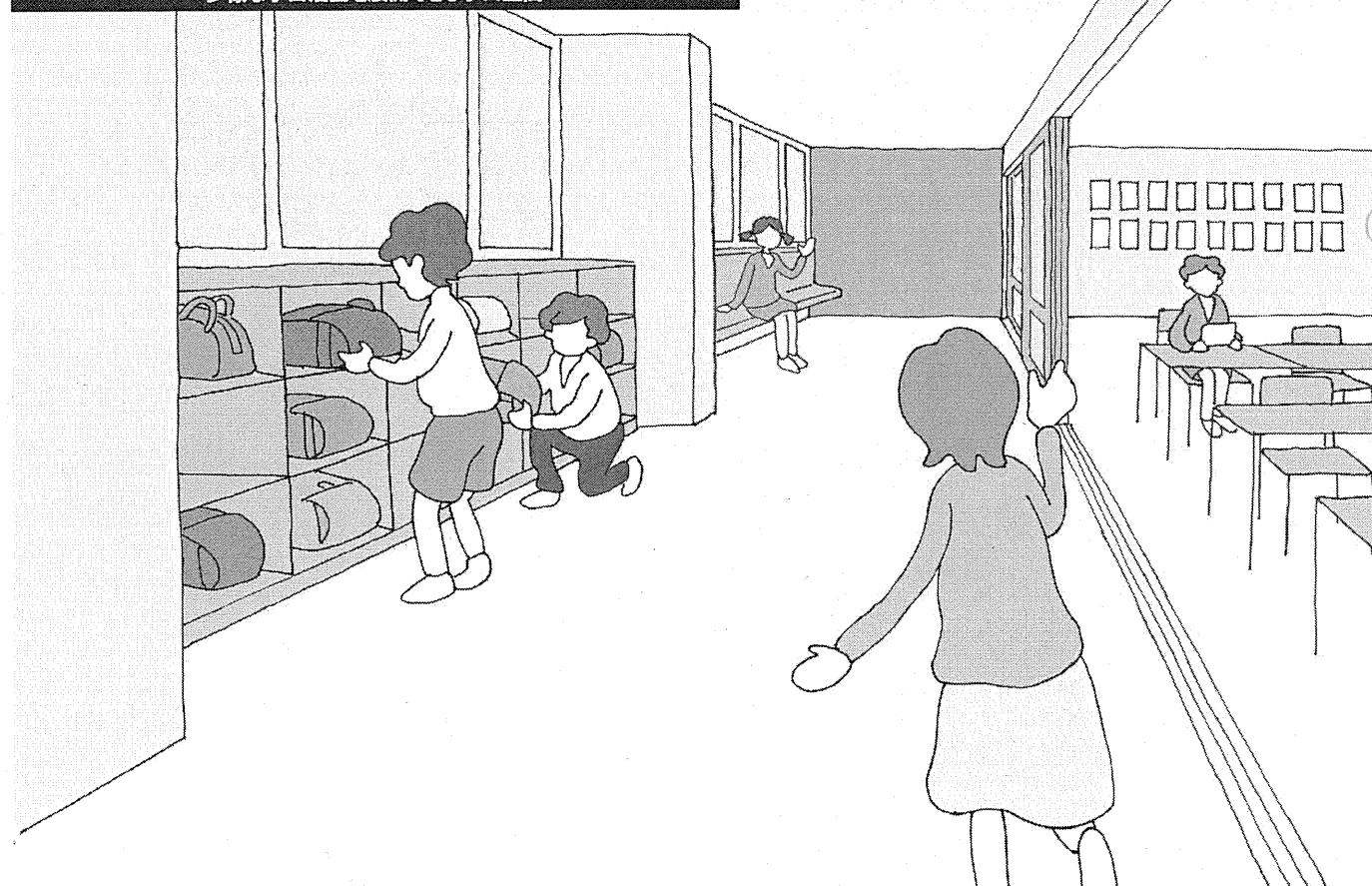
多様な学習活動を展開できる学習空間



教室空間と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を確保し多様な学習活動へ柔軟に対応していく姿

## 03 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間

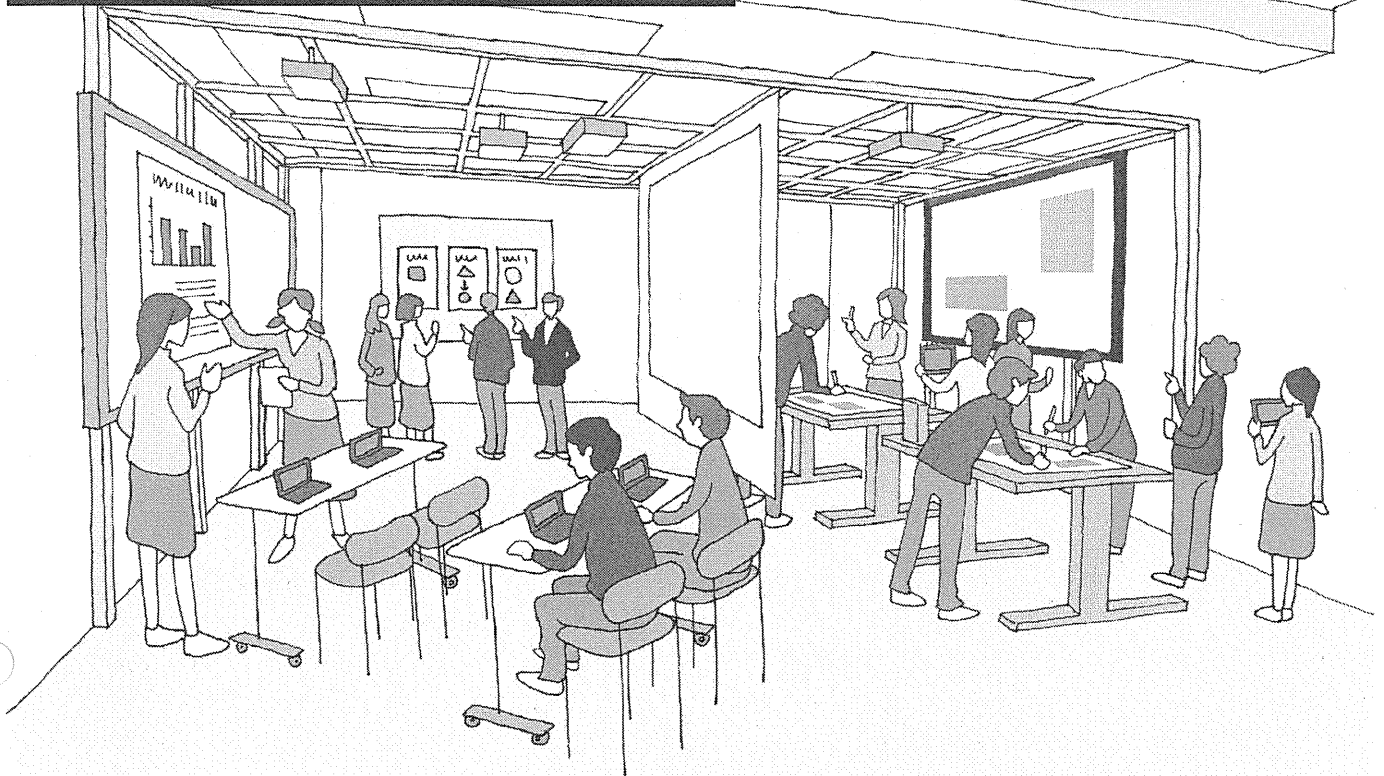


ロッカー等の移動可能な家具を教室外に配置し教室空間を有効に活用していく姿



## 04 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

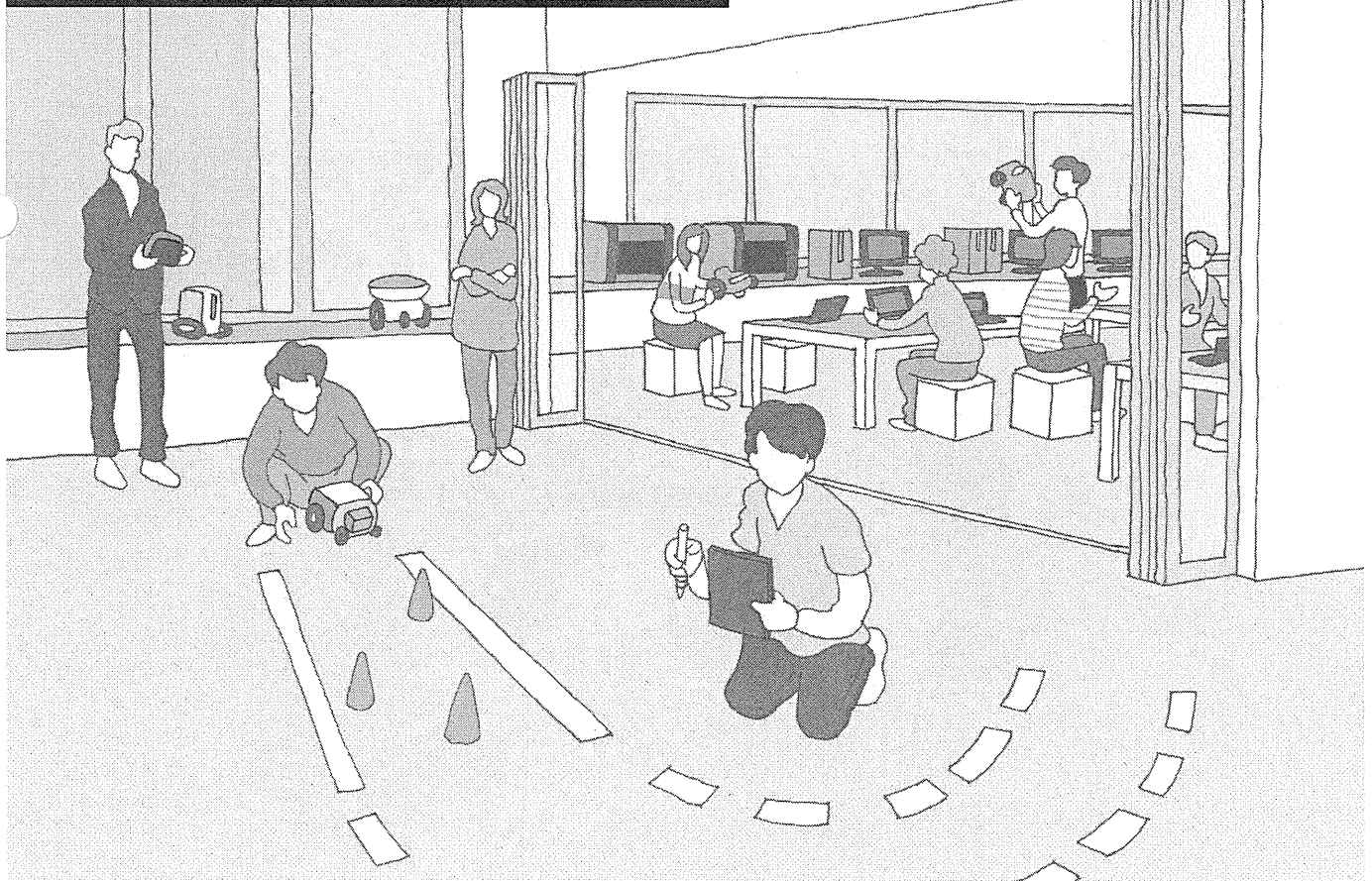
様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

## 05 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

## 06 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開



学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿

## 07 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

## Q8 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

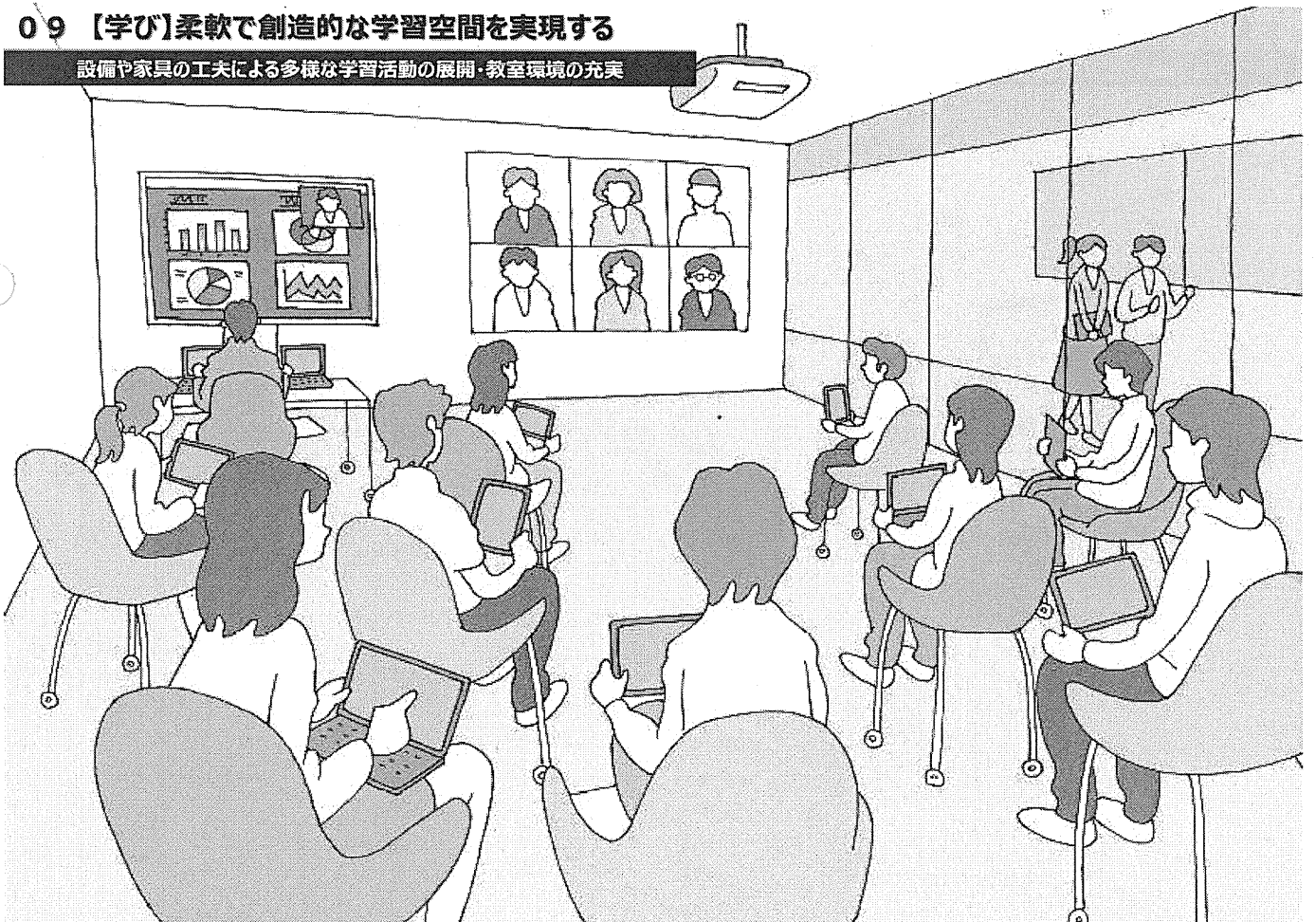
読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



どの教室からも利用しやすいよう学校の中心に図書館を計画し、調べ学習や自主的・自発的な学習が展開されていく姿

## Q9 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開・教室環境の充実

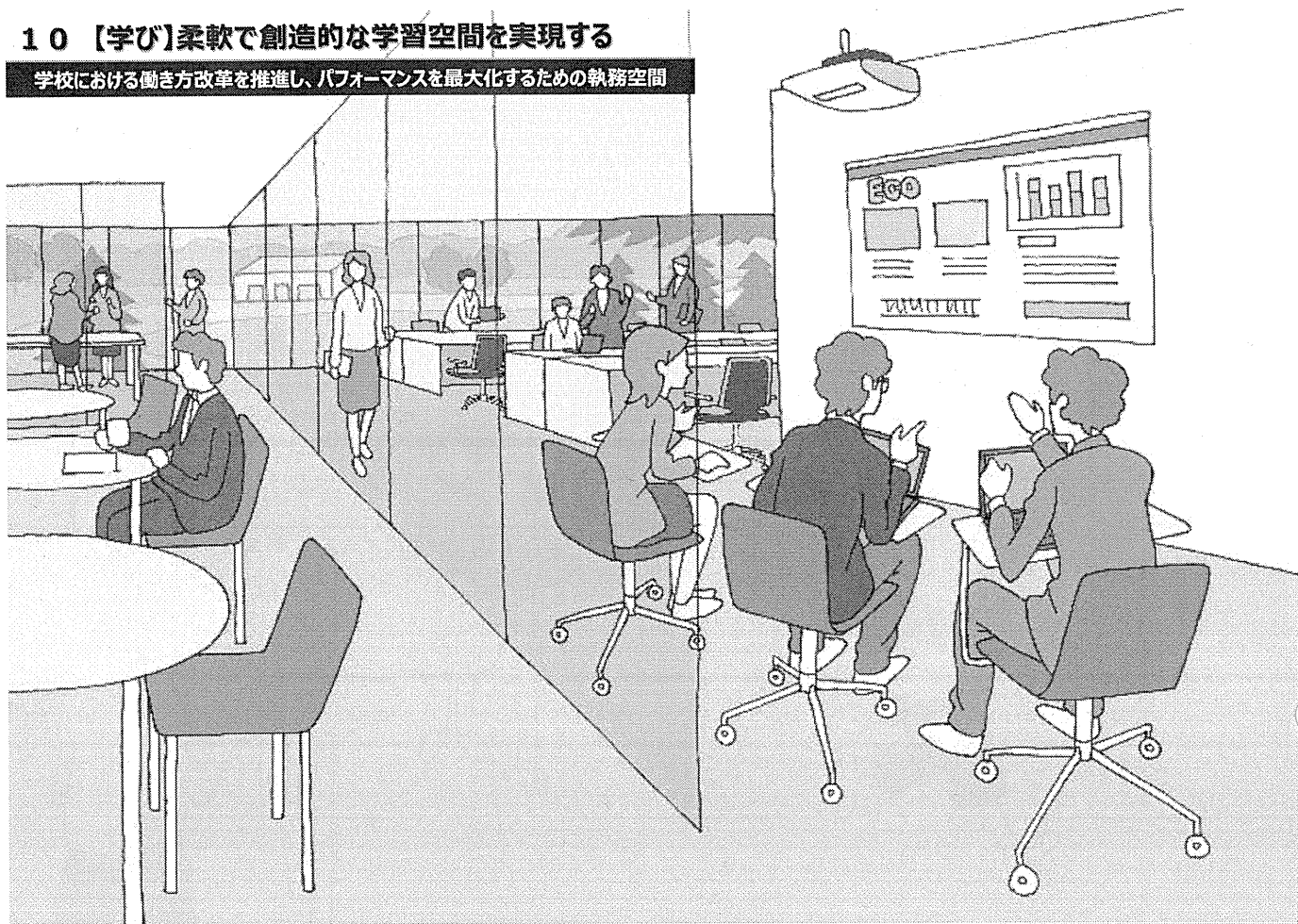


ICT環境の整備や移動が容易な椅子等の配置により、遠隔・オンライン教育など多様な学習活動が展開される教室環境としていく姿



## 10 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

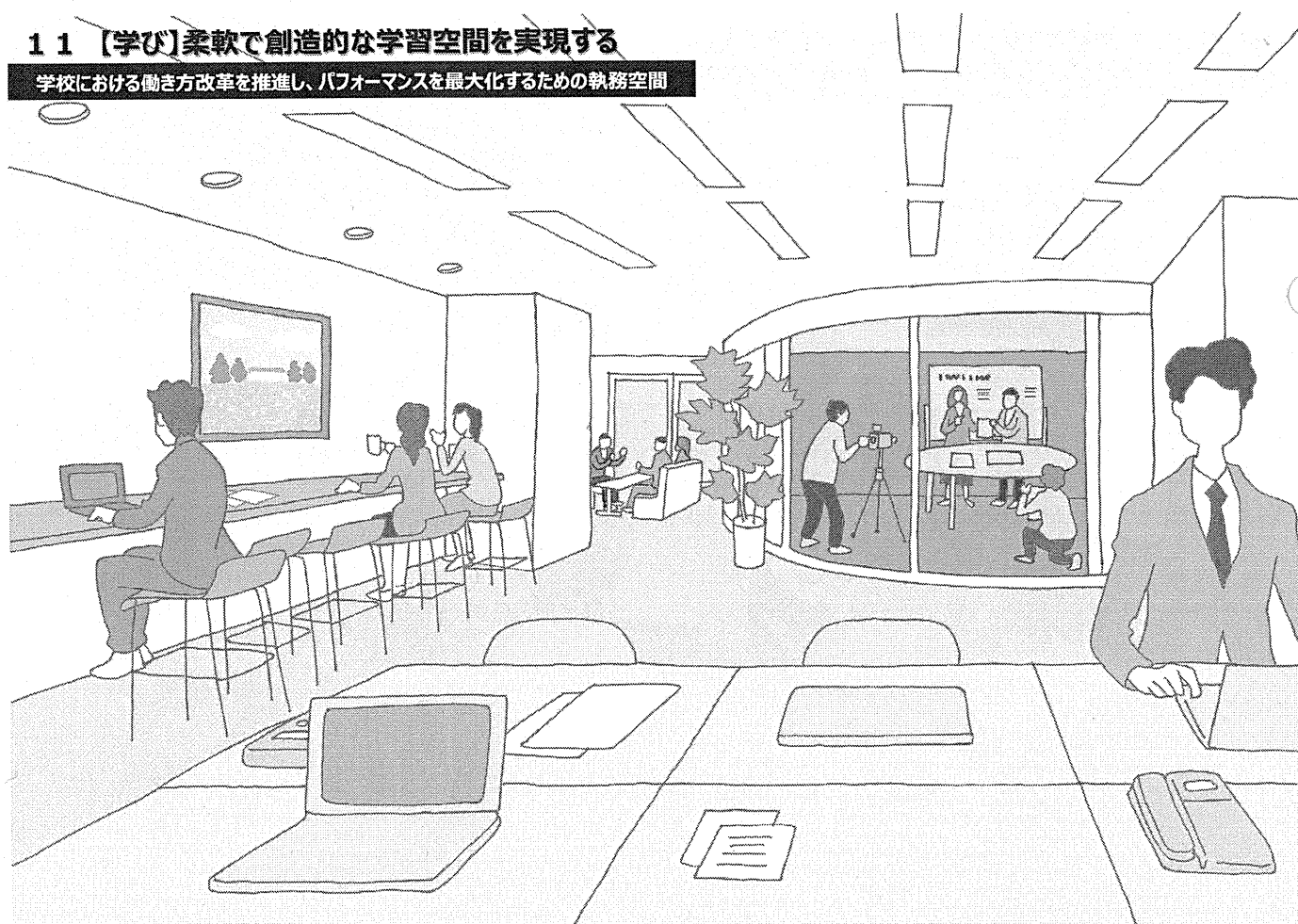
学校における働き方改革を推進し、パフォーマンスを最大化するための執務空間



常時ICTが活用できる環境を整備し、教職員が円滑に執務、打合せ、協働作業等を行うことができる執務空間としていく姿

## 11 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

学校における働き方改革を推進し、パフォーマンスを最大化するための執務空間



映像編集やオンライン会議のための「スタジオ」、情報交換や休息ができる「ラウンジ」など機能性の高い執務空間としていく姿

## 12 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

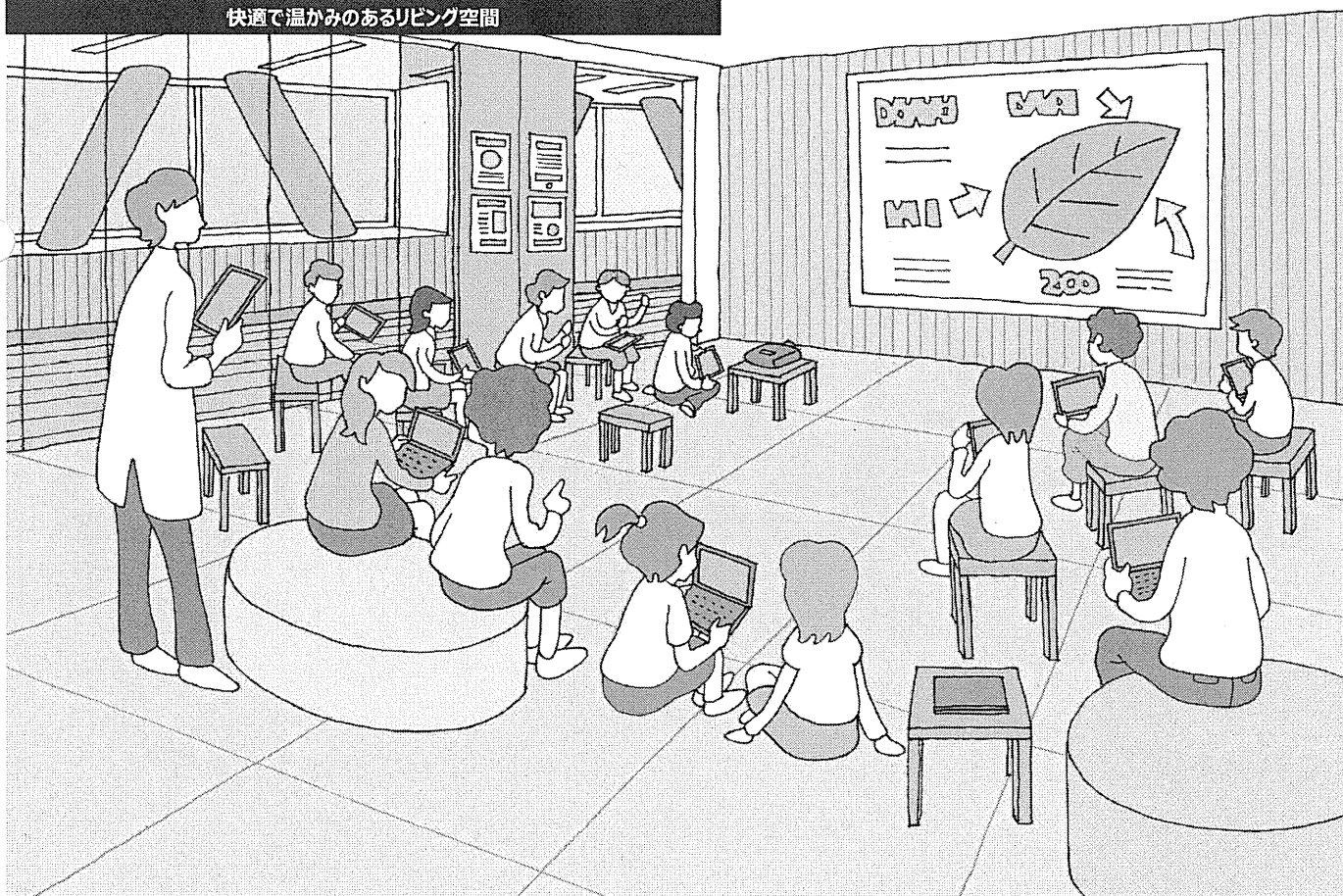
多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応



障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が安全かつ円滑に交流及び共同学習を行うことができるスペースを確保していく姿

## 13 【生活】健やかな学習・生活空間を実現する

快適で温かみのあるリビング空間



木材を活用して温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿



## 1.4 【生活】健やかな学習・生活空間を実現する

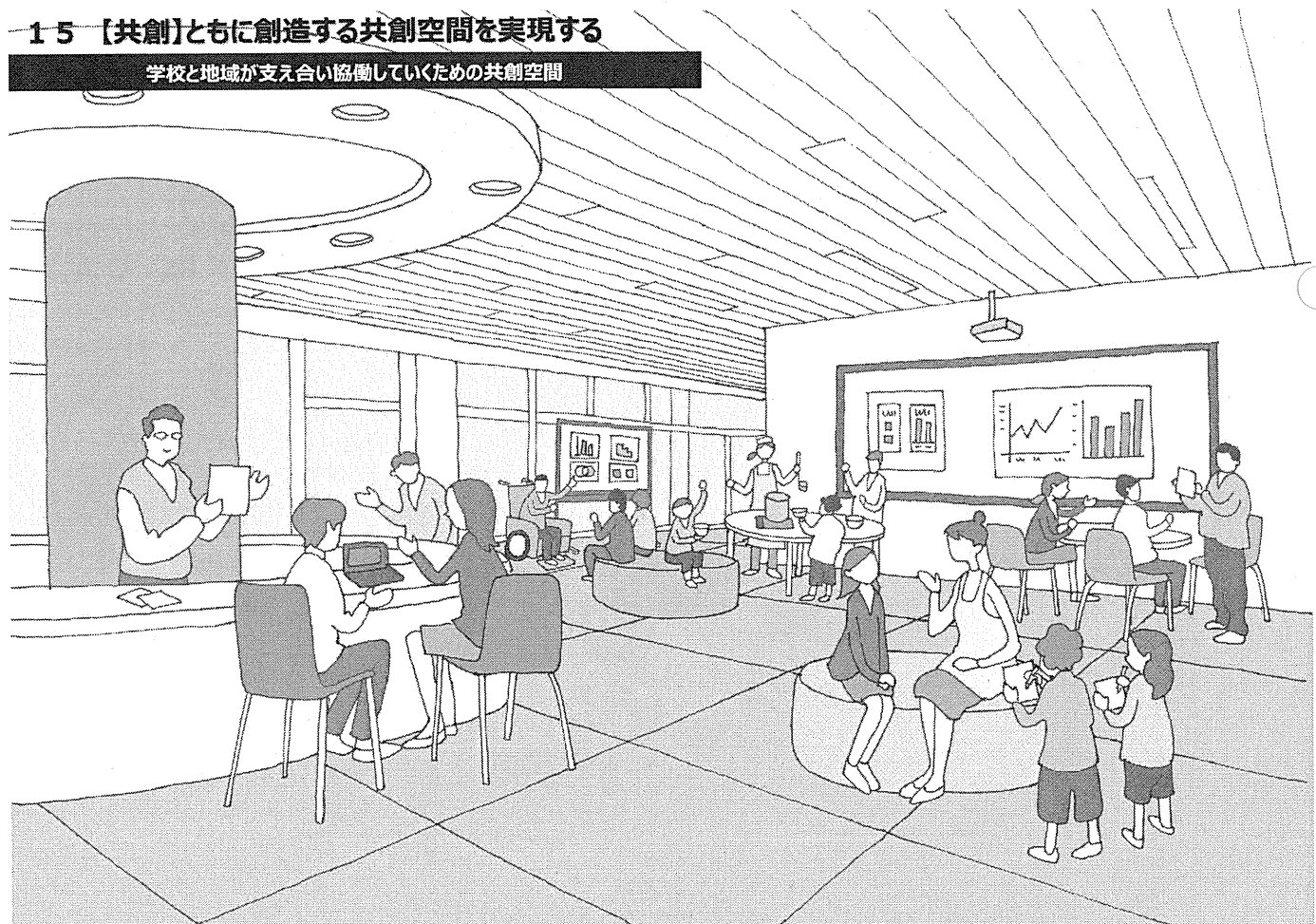
健やかで衛生的な環境の整備



断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、大人数での多様な活動も展開できる大空間として活用していく姿

## 1.5 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

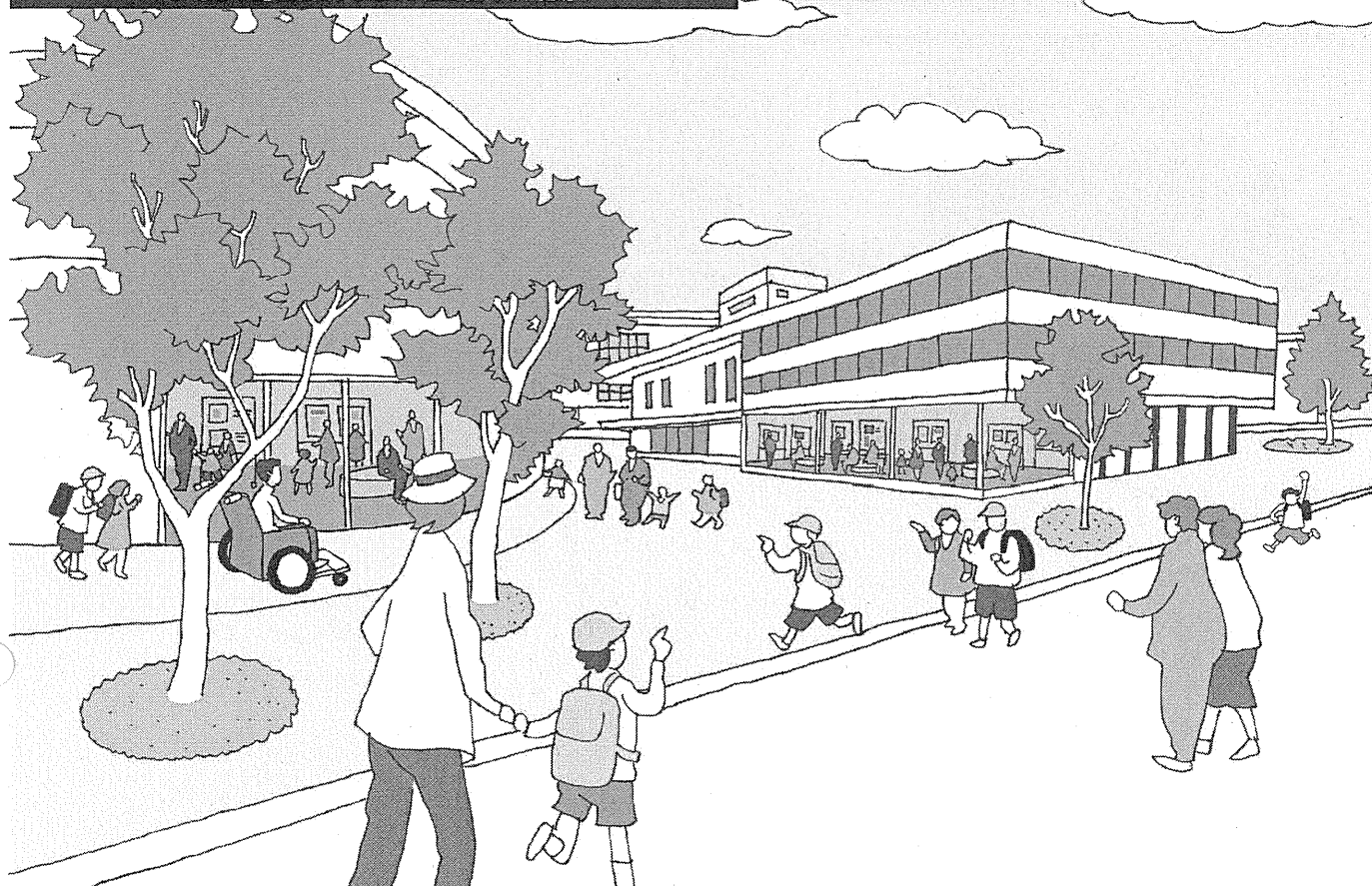
学校と地域が支え合い協働していくための共創空間



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動ができる共創空間としていく姿

## 16 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

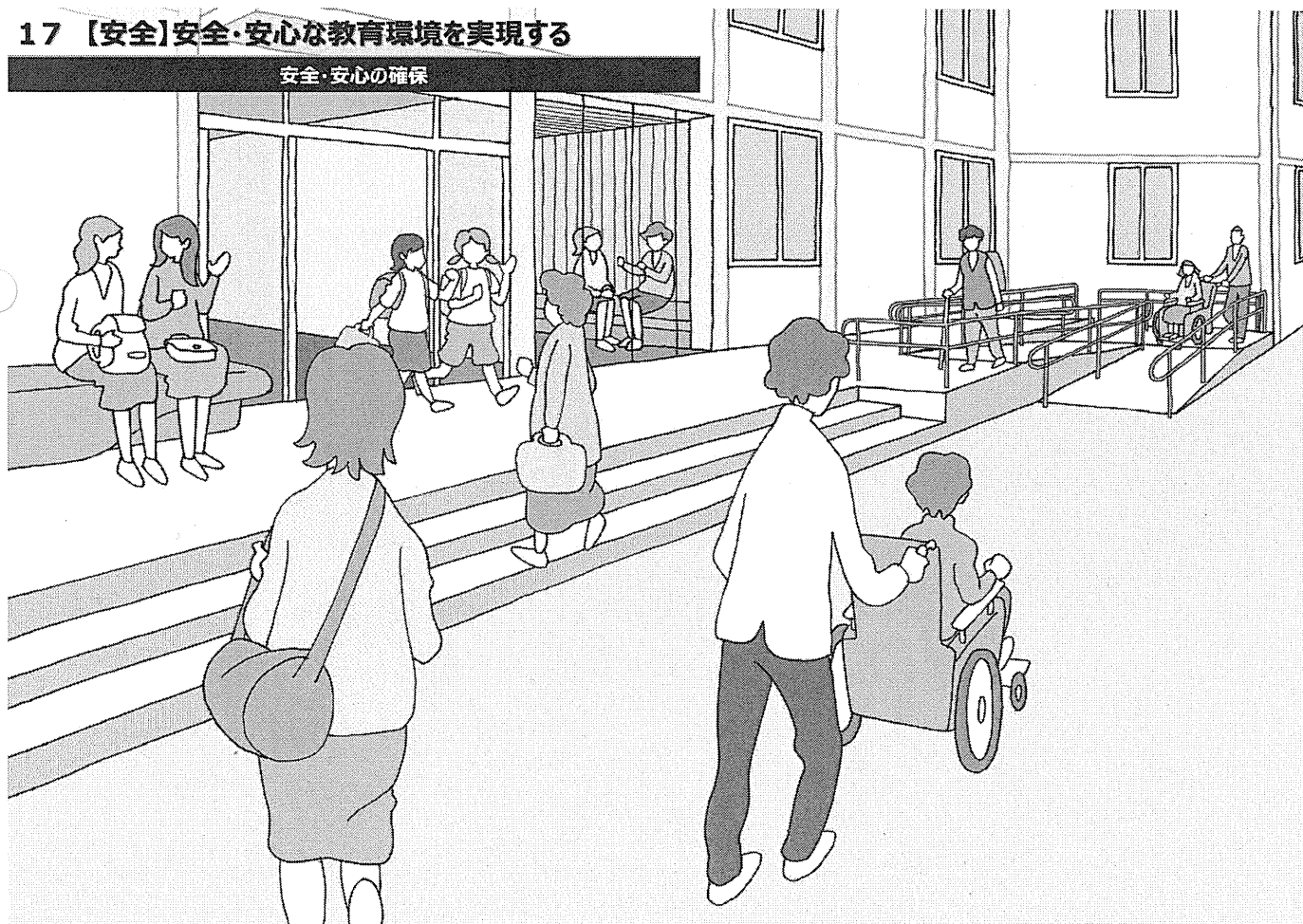
多様な「知」を集積するための複合化・共用化等



他の公共施設（図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿

## 17 【安全】安全・安心な教育環境を実現する

安全・安心の確保

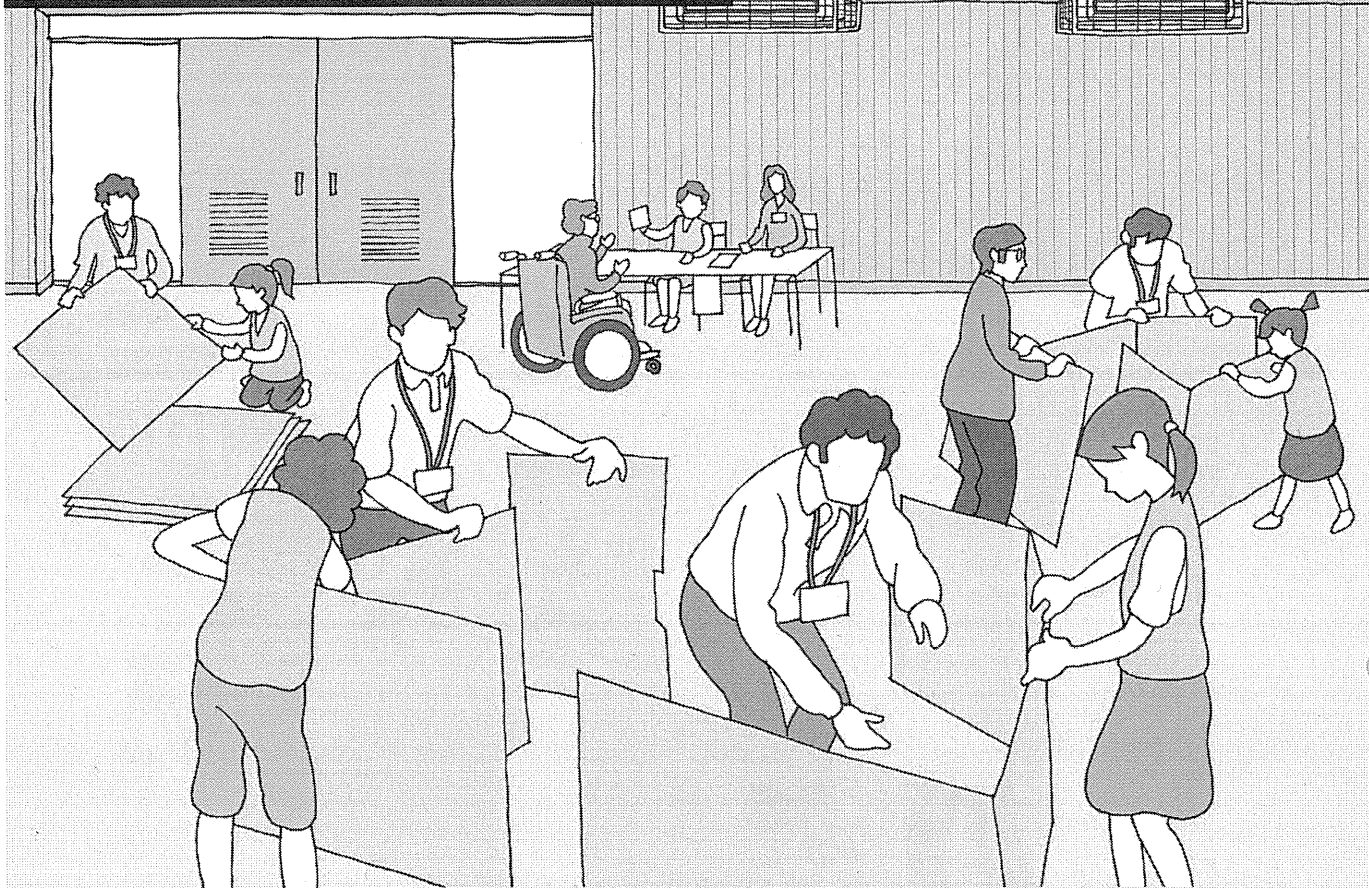


長く使い続けることができるよう安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿



## 18 【安全】安全・安心な教育環境を実現する

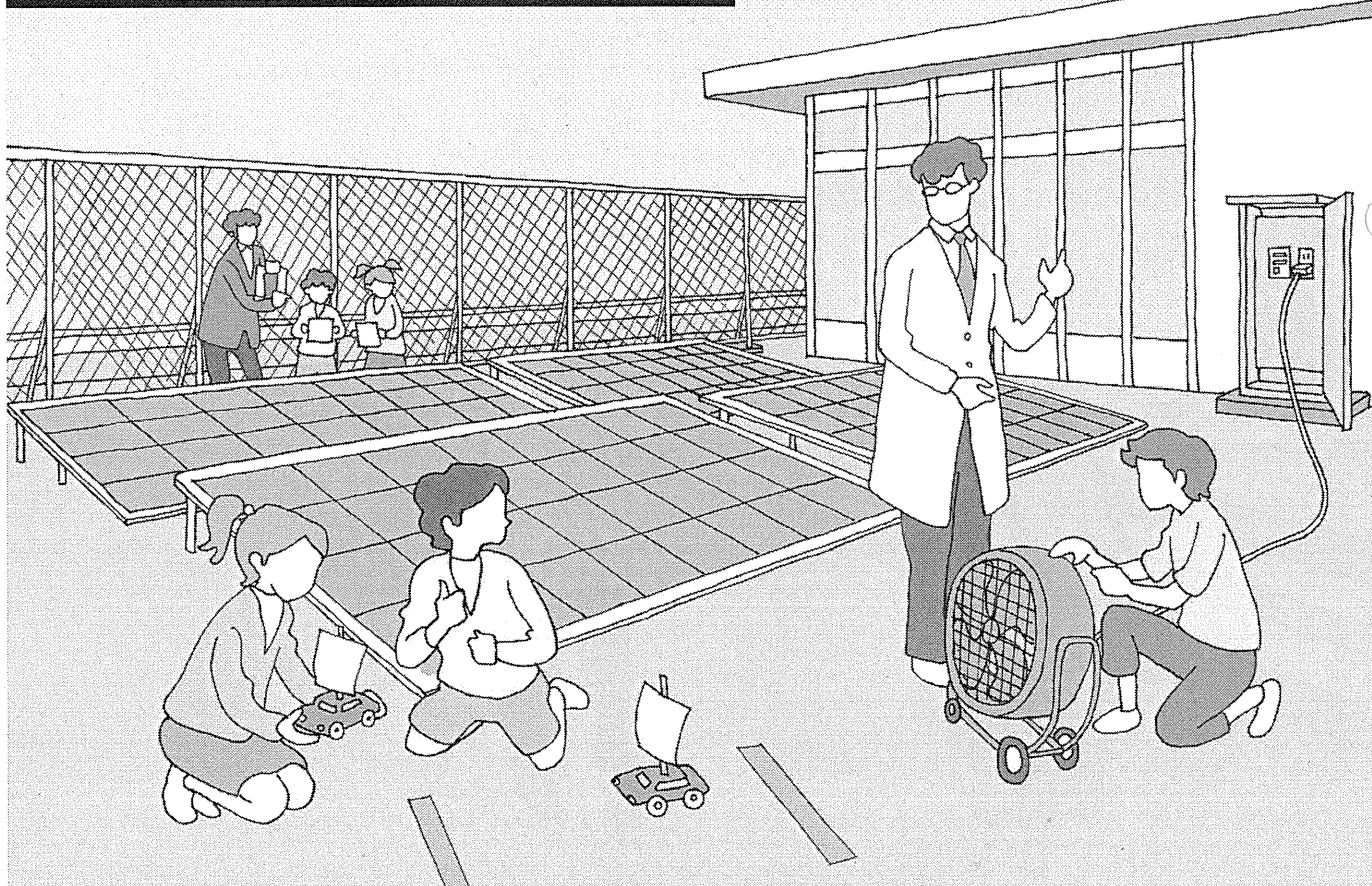
### 避難所としての防災機能の強化



地域の避難所として、バリアフリー化、水害対策など防災機能を一層強化するとともに、居住性等を確保していく姿

## 19 【環境】持続可能な教育環境を実現する

### 脱炭素社会の実現を目指した学校施設整備



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿



## 20【環境】持続可能な教育環境を実現する

木材利用の促進



地域材の活用により、快適で健やかな環境を生み出し、環境負荷の低減に加え地域の活性化や文化の継承にもつなげていく姿

(参考)

新しい時代の学びを実現する空間における整備・活用内容の例

